

# 足かけ8年 完成祝う

五月に開院する中東遠総合医療センター（掛川市菖蒲ヶ池）で二十一日営まれた完成記念式典では、関係者約三百人が足かけ八年の建設事業を振り返るとともに、新病院の発展を誓った。

（富田伸生）

建設事務組合管理者の原田英之袋井市長は「異なる市の病院の統合で多くの課題があったが、皆さんのおかげで乗り越えることができた」と述べ、関係者をねぎらった。

副管理者の松井三郎掛川市長は「両市民が望んでいた救急医療を確保することができた」と話し、真新しい一階エントランスはお祝いムードに包まれた。

テープカットやくす玉割りの後、来賓らは院内を見て回り最新の医療機器や明るい病室に感心した様子だった。

## 「機器、人材 体制整った」

続く懇親会では、セクター院長に内定している掛川市立総合病院に市民向け内覧会がある名倉英一院長が「素

器が導入されたほか、医師、看護師も必要な人員が確保でき、市民の期待に応えられる体制が整った」と意気込みを話した。



来賓に院内の説明をする、院長に内定している名倉英一掛川市立総合病院院長兼＝掛川市で